



前進座 85周年特別公演

東日本大震災・復興支援五周年企画

ひろがれ協同・咲かそう地域

怒る富士

2016年8月1日(月)
神奈川みなみ医療生協
100人委員会ニュース
24号

黄金の稲穂のかなたに
仰ぎ見る富士の姿は
どんなにか美しくろう

涙、涙!! 感動の千穂楽

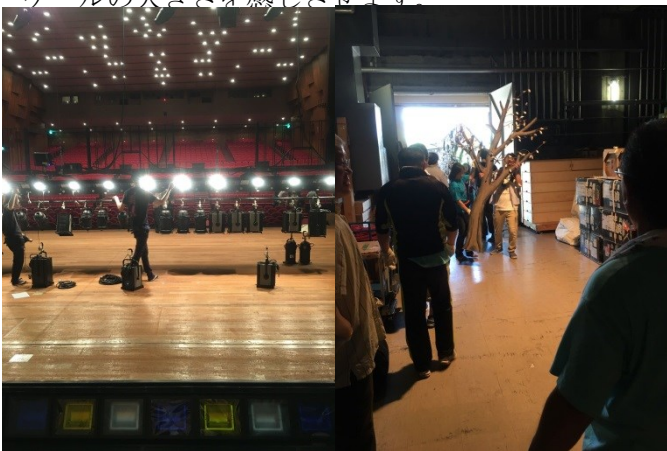
11トントラック一杯に積まれた荷物を搬入

30日上演当日の朝、会場の搬入口には大がかりな舞台セットや衣装道具を積んだ大型トラックがすでに停まっています。待ちに待った一日の始まりです。集合時間よりもかなり前から実行委員が一人二人と集まり、前進座の役者さんやスタッフの方もタクシー乗合いで続々と会場入り。『怒る富士』は35年前の初演から全国で幾度も再演されステージ数を重ねてきた前進座の財産演目ということもあり、俳優27人、スタッフ合わせると総勢45人の大所帯となります。トラック一杯に積まれたセットや道具は、この演目の圧倒的なスケールの大きさを感じさせます。



舞台裏での開演前準備♪

実行委員も荷物の搬入に加わりました。小柄な女優さんも搬入時には力仕事をします。全員での作業です。滅多に見る機会のない舞台裏の様子。照明器具の取付では何やら大型の機械を2ヶ所に取り付けていていましたが、背景に映像を映し出すプロジェクターであったことは開演して初めて気が付きました。



千穂楽の手打ち式 感動話や裏話に花を咲かせた打ち上げ会

5月下旬から御殿場を皮切りに全国を巡演され、ここ横須賀が最終公演ということで、開演前には千穂楽の手打ち式というセレモニーに実行委員も参加させていただき、各々の挨拶の後、一本締めでお祝いしました。

終演後、出口でお見送りする私たち実行委員に、「良かったよ」「ありがとう」と大勢の方が声をかけて下さいました。普段から演劇にふれ見慣れている方からも「感動で涙が止まらなかった」と、何人もの方から聞かれました。

ささやかに催した打ち上げ会では役者さんからの感動秘話や裏話も。「会場に水がしみ込んでいくように近さを感じた」と主役を演じた嵐圭史さん。女優さんの一人は、「千穂楽ということもあり、力のこもった演技が出来ました。忘れられない公演になりました」とおっしゃっていただきました。

関わられた皆さま、本当にありがとうございました。

